

報告事項工

平成24年度鳥取県立高等学校入学者選抜学力検査結果について

平成24年度鳥取県立高等学校入学者選抜学力検査結果について、別紙のとおり報告します。

平成24年6月5日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成24年度鳥取県立高等学校
入学者選抜学力検査結果

鳥取県教育委員会

《 考 察 》

【 国 語 】

国語については、基礎的・基本的な言語事項の問題を各分野から多く出題するとともに、記述式の問題もバランスよく出題した。これらの正答率や平均点、得点の度数分布から見ると、基礎的・基本的な言語事項のうち、漢字や文法、表現技法等の問いでは正答率は高いが、文学史の問題は正答率が低くなった。また、記述式問題や作文問題については、選択式の問題と比較して正答率が極端に下がるうえ、無答率も高くなっている。本文の表現内容を考察、吟味し、何が問われているかしっかりと理解して的確に説明したり、条件に従って自分の考えをまとめ、正確に記述して表現したりする力を育成していくことが大切である。

【 社 会 】

社会については、各分野から習得すべき基礎的・基本的な知識を問う問題を出題した。地図の読図などの地理的技能や近世までの歴史的事象の意味や意義の理解、身近で具体的な事例を参考にして、社会生活や経済活動の基本的な考え方をとらえる力は身に付いてきている。一方、地域の特色ある地理的事象を他の事象と有機的に関連付けて思考する力や歴史の流れを大きくとらえて理解する力は十分に身につけているとはいえ、今後一層これらの力を養っていくことが必要である。いずれの分野においても、日常から社会的な問題に対する関心を高め、基礎的・基本的事項を理解した上で、多面的・多角的に考察し公正に判断する態度や、自分の言葉で適切に表現する能力や態度を育成していくことが重要である。

【 数 学 】

数学については、基本的事項を問う問題を多く出題するとともに、表・図・グラフ・他者の考察を積極的に活用して課題を解決する問題を出題した。教科書や問題集等で学習した型どおりの問題は正答率が高かったが、問題文などから複数の条件を把握する問題では、問われている内容の難易にかかわらず誤答率が高かった。これは、型どおりには処理できない問題や、型にはめるまでに試行や多段階の思考を要する問題など、事象を論理的・数理的に考察・処理することに課題があるためと考えられる。問題文を正確に把握した上で、補助線を引く、表を作る、いくつかの値を代入する、条件に合わせて実際に変化させた図を書くなど、具体的な操作を通して主体的に問題場面を理解し、論理的に考察する力を育成していくことが重要である。

【 理 科 】

理科については、科学的な用語や単純な現象を問う問題から実験や観察、作図の結果をとおして総合的に考察する問題まで幅広く出題した。用語や単純な現象を問う問題は、正答率も7～8割あり、基礎的・基本的事項の定着が見られたが、一方で化学式の記述や低気圧における空気の動きを問う問題、中和に関する基本的な知識を問う問題では、単純な問いでありながら正答率は5～6割程度にとどまった。平素の授業において確実な知識を定着させる指導の工夫が必要である。また、実験や観察、作図の結果をとおして総合的に考察する問題では、受検者の半数以上が共通の誤答をした問いもあることから、誤った理解が生じた原因を分析するとともに、平素の実験や観察を注意深く行うこと及び生じた結果をしっかりと考察させながら、科学的に調べる態度を育成することが重要である。

【 英 語 】

英語については、内容を的確に理解する力をみるため、問題の構成を変更し、読み取りの力をみる問題を2題から3題に増やした。短めの英文や会話文の内容を聞き取ることや、まとまりのある英文や会話文を読み本文の概要を理解することは良好であるが、思考力や表現力を伴う問題の正答率が低かった。使用場面に応じて英語で表現したり、本文の流れを的確に理解した上で単語や英文を補ったり、大切な部分を自分の言葉で説明することに課題がある。まとまりのある英語に慣れ親しみ、その内容を正確に理解したり、理解した内容を適切に伝える言語活動に継続的に取り組む必要があるとともに、読み取った内容について自分の考えを書くなどの技能を統合した指導を望む。また、平均点は、昨年度並みであったが、下位層が一定の数いることから、コミュニケーションを伴う言語活動を通じて基本的な英文の定着を図る必要がある。

《 国 語 》

【出題の基本方針】

- 1 国語の基礎的・基本的事項についての知識を問うとともに、社会生活において必要となる言語事項について、その理解力をみる。
- 2 論理的な文章を読むことをとおして、筆者のものの見方や考え方、論の展開を的確に読み取る力や読み取った内容を与えられた条件に従って表現する力をみる。
- 3 文学的な文章を読むことをとおして、文章に描かれた場面、心情、表現の特色などを的確に読み取る力や、読み取った内容を与えられた条件に従って表現する力をみる。
- 4 古文を読むことをとおして、古文の基本的な事項や記述された内容について、理解する力をみる。
- 5 与えられた条件に従い、自分の考えをまとめ作文する力をみる。

【結果の概要】

- 1 問題一は、例年通り小問集合形式による出題とし、基礎的・基本的事項及び日常生活において必要となる国語の力をみた。楷書の筆使いを問う書写の問題やインタビューにおいて流れにふさわしい質問事項を考える問題では正答率が高かった。一方、同音の漢字を考えて別の熟語を作る問題や基礎的な文学史の問題は正答率が低くなった。漢字や四字熟語、文学史等の基礎的・基本的事項の定着と語彙を豊かにする活動の充実が求められる。
- 2 問題二は、説明的文章とし、基礎的な言語事項と筆者の論の展開、表現内容を理解する力を問う問題構成とした。基本的な言語事項を問うた漢字の書き取りや接続詞・副詞を当てはめる問題は正答率が高い。一方、文脈をたどりながら筆者の主張を考えたり、表現内容を理解し他の言葉で表現したり、本文中の図を理解した上での的確に説明したりする記述式の問題は正答率が低い上に無答率が高い。本文の内容をじっくりと吟味し、根拠に基づいて粘り強く正答を導き出す態度の育成が必要である。
- 3 問題三は、文学的文章とし、基礎的な言語事項と文脈をたどりながら表現内容・登場人物の心情等を読み取り、理解する力を問う問題構成とした。漢字の読み、文法的知識等の問題や登場人物の心情を考察して選択する問題は正答率が高いが、読みの問題で「日和」を「びより」とする誤答が多数に上った。一方、文学的文章の表現について考察し、選択する問題では、やや正答率が低くなった。また、登場人物の心情や行動の理由を説明する記述式の問題は正答率が低く、無答率が高くなった。表現内容を的確に読み取り、理解して表現する力に課題がある。文学的文章についても論理的な文章と同様、本文を根拠に心情と言動の脈絡を客観的に読み取る態度と技法が求められる。
- 4 問題四は、古典分野の古文からの出題とし、古文の基本的な知識や内容を理解する力をみた。歴史的仮名づかいや表現技法の問題は正答率が高く、古典における基本的な知識の定着がうかがえる。一方、文脈を理解し、本文の内容を読み取り、理由や人物像を考察する問題は正答率が低くなった。古典に親しむ態度とともに内容を的確に読み取り、表現する力を育成する必要がある。
- 5 問題五は、作文とし、与えられた条件に従って、自分の考えをまとめ表現する力をみた。条件を理解しておらず、必要な内容が記述されていなかったり、誤字や主述のねじれが見られたりしたほか、無答率もやや高くなっている。誰に対して述べるのかを明確に意識し、自己の考えを正確に記述して表現する力と最後まで粘り強く書き切る態度を育成する必要がある。

《 社 会 》

【出題の基本方針】

- 1 日本や世界の地理的事象について、地図、雨温図、写真などの資料をもとに、その地域的特色を考察する地理的な見方や考え方が身についているかをみる。
- 2 日本の歴史における各時代の特色や事柄を、写真や年表などの資料をもとに多面的に考察し、歴史の大きな流れなどを大観し、総合的に理解しているかをみる。
- 3 日本の政治や経済の基本的なしくみを理解し、社会の動きに関心を持ち、社会的事象について今日の生活とのかかわりの中で考え、判断する力をみる。
- 4 近現代の日本を経済的な視点から考察し筋道を立てて適切に表現する力や、国際的な課題について複数の資料から必要な情報を抽出し、比較・関連づけて総合的に判断する力をみる。

【結果の概要】

- 1 問題1は、地理的分野に関する出題とした。地理学習の全般にわたって地図の活用に関する技能は、身に付いてきている。特に、地形図を読み取る問題の正答率は約7割と高く、中学校の地理的分野の学習の成果があらわれたと考える。しかし、シンガポールの対日主要輸出品目を選択する問題は、正答率が約2割であり、統計などの資料を読み取り、地域的な特色を総合的に判断する力に課題が見られた。地理的な見方や考え方の基礎を培い、世界や日本の諸地域の地域的特色や課題をとらえさせる学習を一層充実させることが大切である。
- 2 問題2は、歴史的分野に関する出題とした。古代から近世までは、基本的な歴史的事象の意味や意義の理解は進んできている。卑弥呼の時代の東アジアの地図を選択する問題も正答率が7割を超えていた。しかし、昨年同様、我が国の歴史の大きな流れを理解しているかを問うた歴史的事象を並べ替える問題は正答率が3割程度と低く、引き続き課題である。また、近代の特色を、世界の動きと関連させてとらえる力にも課題がみられた。近現代の学習を一層重視するとともに、歴史的事象の事象間の関連に着目し、説明したり意見交換したりしながら自分の言葉で表現する力を一層工夫して学習させることが大切である。
- 3 問題3は、公民的分野に関する出題とした。政治、経済の基本的な知識を問う問題の正答率は概ね高かったが、「労働組合法」を問う問題では、正答率が低く、「労働基準法」や「労働基本法」という誤答が多かった。大切なことは、なぜそのような法がつけられたのか、なぜそのような法があるのかなど制度や仕組みについての意味や意義を正しく理解させることである。また、日本国憲法の3つの基本原理の一つである「平和主義」を問う問題で、「民主」と解答した生徒が1割程度いたことは課題である。現代社会の社会事象に関する関心を高め、現代社会についての見方や考え方や概念の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする力を一層工夫して育てていくことが大切である。
- 4 問題4は、近現代の歴史と経済とを融合し、歴史的分野と公民的分野とを有機的に関連付けて事象を考察する力をみる問題とした。国際連合の説明として適当なものを選択する問題は、正答率が約8割と高かった。また、グラフを比較して読み取り、判断する問題も良くできていた。特に、グラフや年表などの複数の情報から必要な情報を抽出して、「アフガニスタン」と解答する問題の正答率が高かったことは、中学校での学習指導の成果と考える。今後も、習得した知識を活用して、社会的事象について自分の考えを説明する力を養っていくことが大切である。
- 5 いずれの分野においても、日常生活から社会的な問題に対する関心を高め、基礎的・基本的事項を理解した上で、多面的・多角的に考察し公正に判断する態度や、自分の言葉で適切に表現する能力や態度を育成していくことが重要である。

《 数 学 》

【出題の基本方針】

- 1 各学年の学習内容について、基礎的・基本的事項の理解度及び計算力・表現力をみる。
- 2 基本的な概念や原理・法則を活かして、見通しをもって、問題を分析し処理する力をみる。
- 3 数学的な見方や考え方を活用して、対象を論理的に考察し、課題を解決する力をみる。
- 4 日常生活における題材について、数理的に考察し、処理する力をみる。

【結果の概要】

- 1 問題1は小問集合とし、各学年で学習する基礎的・基本的事項の理解度及び単純な計算力を見る問題を出題した。概ね正答率が高く良好な結果であったが、二次関数の変域、扇形の面積の利用で誤答率が、証明の問題では部分点率及び誤答率が高かった。問題文を正確に把握し、見通しを持って基本的な事項を複数活用しながら解答にいたる能力の育成が必要と考えられる。
- 2 問題2は、数と式に関する基礎的な概念を日常的な場面に活用する問題とした。基本的な事項を問う問1では良好であったが、問題文で示された考え方に基づいて発展的に考察する問2では、誤答率、無答率が高かった。これは、問題文を解釈し数理的に考察する点に課題があると考えられる。与えられた状況を分析し発展的に考察するなどの、数学的活動が重要である。
- 3 問題3は、図形の中で変化していく量を、グラフをもとに考察する問題とした。数量関係を式とグラフで表すことを問う問1と、図形の基本的な性質を問う問2で誤答率が高かった。これは、問題場面を的確に把握し、数量関係の基本的事項を活用して考察を深めることに課題があると考えられる。また、問3は、グラフを通して考察する難度の高い出題であり正答率は低かった。事象を数学的に表現・処理する能力の育成が望まれる。
- 4 問題4は、カードに書かれた数により定まる値について、文字式に基づいて考察する出題とした。基本的な知識を問う出題である問1、問2、問3でやや誤答率が高く、問題文で示された考え方に基づいて発展的に考察する問4で無答率が高かった。式の意味を読み取り考察する姿勢に課題があると考えられる。文字式の有用性について認識を深める指導が望まれる。
- 5 問題5は、立体図形の切断について取り扱った。問1、問2はともに基本的な知識を問う問題だが、平面図形に関して問う問1は良好であるのに対して、立体図形を把握して考察する問2では誤答率が高かった。同様に、立体図形を多角的に把握し考察する問3でも、誤答率が高かった。これは、複数の基本的な概念を利用して、立体を論理的に考察する能力に課題があると考えられる。補助線を活用する、立体図形の中に含まれる平面図形に注目して考察するなど、立体を多角的に分析する姿勢の育成が重要である。

《 理 科 》

【出題の基本方針】

- 1 自然に対する、基礎的・基本的な事項について理解ができているかをみる。
- 2 身近な自然の事物・現象に興味・関心をもち、科学的に調べる態度が育っているかをみる。
- 3 自然の事物・現象の中に規則性・法則性を見いだすなど、科学的な見方や考え方ができているかをみる。
- 4 観察・実験で得た結果を処理し、総合的に考察して、自らの考えを導き出し、表現する力が身につけているかをみる。

【結果の概要】

- 1 問題1は、物理分野に関する出題とした。興味・関心や科学的に調べる態度が育っているかをみる問題である。問1では約3割の受検者が「24cm」という共通の誤答であり、作図を正確に行うことが求められる。問3の、レンズの半分を隠す問題では、約6割もの受検者が「半分の像しか映らない」という誤った理解をしていた。また、問5では、「凸レンズの厚みを増すと、大きな像が見える。」という日常の単純な経験から「大きく」という誤答が7割近くにもものぼった。これらの誤った理解については、平素行っている実験、観察において、予想を立てさせることに加えて、予想外の現象についての新鮮な驚きを感じさせながら、結果をしっかりと考察させ、科学的に調べる態度を育成することが重要である。
- 2 問題2は、生物分野に関する出題とした。実験の目的や内容についての理解度をみる問題であり、正答率も高く概ね良好であった。ただし、問1は、消化についての正確な知識が必要な問題であり、誤答率はやや高かった。
- 3 問題3は、化学分野に関する出題とした。問2、問5は基礎的・基本的な事項の理解度をみる問題であり、概ね良好であった。ただし、問4の、 NaCl の電離式を書かせる問題は、基礎的な事項でありながら無答率が非常に高く、学力層によっては、化学式が定着していない状況が見られた。基礎的な物質の化学式、イオン式については確実に書けるようにさせたい。
- 4 問題4は、地学分野に関する出題とした。天体に関する規則性や法則性から天体の見かけの動きを考えさせる問題である。特に問4の、黄道について問う問題の正答率が低かった。用語を覚えさせることは大切だが、その本質について正確に理解させることも重要である。
- 5 問題5は、物理分野に関する出題とした。概ね良好であったが、問5で「大きくなる」という誤答が5割を超えたことから「力がつり合う」ということを、作図を通して正確に理解させることが必要である。
- 6 問題6は、地学分野に関する出題とした。問3(2)の、様々なデータから前線の通過時刻を総合的に考察させる問題では、受検者全体の正答率は約5割であったが、平均点(29点)以上の受検者の正答率8割に対し、平均点以下の受検者の正答率は2割であり、両者の間に顕著な差が見られた。このことから、平素の授業において、様々なデータから必要なものを選択する力や科学的現象を総合的に考察させる指導の工夫が必要である。
- 7 問題7は、生物分野に関する出題とした。問2(1)の、該当する接眼レンズと対物レンズを選ばせる問題の正答率が15%と低かったことから、平素行っている実験、観察については、生徒に一定の視点を示して一層注意深く行わせることが必要である。
- 8 問題8は、化学分野に関する出題とした。問4の、化学現象を粒子概念を用いて考察する問題では、受検者の学力層に関わらず正答率が3割であった。様々な化学現象(蒸発、化合、分解、中和、酸化や還元等)をマクロな目でとらえることと同時に、原子・分子・イオンといった「ミクロな粒子概念」を用いて考察させる授業の工夫が望まれる。

《 英 語 》

【出題の基本方針】

- 1 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の各領域にわたって、基礎的・基本的事項を理解しているかをみる。
- 2 日常生活の身近な事柄などについて、初歩的な英文やまとまりのある英文・会話文を聞いて、話し手の意向や大切な部分などを理解する力をみる。
- 3 日常生活の身近な事柄などについて、初歩的な英文を用い、自分の考えなどを表現する力をみる。
- 4 説明文や会話文を読んで、本文や会話の流れを理解したり、重要な情報を読み取る力をみる。
- 5 物語文を読んで、本文の概要や、登場人物の考えや気持ちなどを読み取る力をみる。

【結果の概要】

- 1 問題1は、「聞くこと」に関する問題とした。基本的で短い英文や会話文を聞き取る力をみる問題の正答率が高いが、まとまりのある英文や英会話において、聞き取った単語をそのまま解答して間違える生徒が多く、聞き取った情報をもとにして数字を計算したり、複数の情報の中から求められている情報を選択したり、まとめて解答する問題の正答率は低く、思考力や判断力を伴う聞き取りに課題がある。まとまりのある英文・英会話の聞き取りに慣れ、必要な情報を理解できることが必要である。
- 2 問題2の「書くこと」に関する問題では、基本的な表現や文構造の習得については良好であるが、使用場面に応じて適切に英語で表現することに課題がある。言語活動を行う場合に、言語の使用場面や働きを意識して指導する必要がある。また、好きな季節とその理由を答える問題については、身近なテーマで取り組みやすく、昨年度と正答率はほぼ同じであったが、部分点率は向上した。自分の考えを書いたり話したりする言語活動に継続的に取り組ませる必要がある。
- 3 問題3は、「読むこと」に関する問題とし、食用としてのトマトの普及についての「説明文」とした。該当部分を特定し、その内容の理解をみる問題については正答率は高かったが、前後の文脈から判断して英文を選択する問題の正答率は低かった。大まかな流れを理解しながら、本文の大切な部分をとらえて的確に読み取る力を育成する必要がある。
- 4 問題4は、「読むこと」に関する問題とし、新聞についての「会話文」とした。会話の流れを理解したり、大切な部分を抜き出す問題では正答率は高く概ね良好であるが、英文の内容をまとめて日本語で説明する問題の正答率は低かった。一文一文の解釈にととどまらず、まとまりのある内容について自分の言葉で表現する言語活動を行う必要がある。
- 5 問題5も「読むこと」に関する問題で、ある程度の長さのある「物語文」を扱った。物語の主題を把握したり、出来事を理解する選択問題では正答率は高く、大まかな内容理解については良好である。一方で、物語の内容から判断し本文に1語補充したり、求められている情報を日本語で説明したり、読み取った内容に基づいて登場人物の立場から英語で作文する問題では、正答率は低い。ある程度の長さのある物語を、書き手の意図を理解しながら、正確に読み取ることに課題があり、多くの英文に触れたり、英文の内容を踏まえて書き手の考えをまとめるといった言語活動を充実させることが必要である。